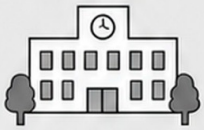
調査データの今後の公表スケジュールと教育現場での活用について

― 通常の学級における個に応じた指導・支援に関する全国調査 ―

本調査では、通常の学級における個に応じた指導・支援について、学校全体・コーディネーター・担任という異なる立場から把握します。調査データは、個人や学校が特定されない形で集計・分析し、今後公表する予定です。公表された結果は、各学校で支援のあり方を振り返り、校内で話し合う際の参考資料として活用していただくことを想定しています。

1 3つの調査票で、同じ論点を異なる立場から把握します

学校票
（学校全体の視点）



- 学校の方針・体制
- 校内研修・組織的取組
- 支援体制の整備状況
- 管理職の姿勢　など

コーディネーター票
（校内支援の視点）



- 相談・調整機能
- 情報共有
- 校内委員会の運営
- 担任への支援
- 外部機関連携　など

担任票
（学級での実践の視点）



- 子どもの学びの状態
- 教師の実践
- 学級・授業環境
- 学校体制に対する受け止め
- 必要な支援　など

三つの立場の回答を組み合わせることで…

同じ論点について、異なる立場からの共通点や違いを確認できます

学級・学校の条件と、校内の仕組み・相談や調整・学級での指導・支援との関係や傾向を整理します。



2 調査データの分析から公表までの流れ

全国の学校から回答
（オンライン回答）



学校からの回答をオンラインで受け付けます。

回答の整理・基礎集計分析



12月から回答を整理し、基礎集計を進めます。

個人や学校が特定されない集計結果として公表



集計結果は、個人や学校が特定されない形で公表します。

教育現場での活用
（公表された結果の参照）



公表された結果を、各学校で自校の状況を振り返り、校内で話し合う際の参考資料として活用していただくことを想定しています。

3 教育現場での活用例 ― 公表された結果をもとに、こんな話合いの手がかりに ―

例 1

相談の機会や支援方針の共有は、学級での支援とどのように関係しているだろうか？

- 学校の方針と、担任の受け止めに共通点や違いはあるか
- コーディネーターによる支援と、学級での実践はどのようにつながっているか　など

例 2

調整時間、研修、情報提供、教材など、学級での実践を支えるために、校内でどのような支援が必要だろうか？

- どのような研修や情報が求められているか
- 教材や人的な支援、調整の仕組みなどをどのように整えるか
- 学校全体として取り組めることは何か　など

4 今後のスケジュール（現時点の工程案）

調査実施（オンライン回答）	回答整理・分析（基礎集計を含む）	結果公表
2026年10月30日（金）～12月７日（月）締切	12月から回答を整理し、基礎集計を進めます。	2027年2月27日（土） 国立特別支援教育総合研究所 研究所セミナーで報告予定 2027年7月 速報版をウェブページに掲載予定

※ 調査の結果は、個人や学校が特定されない集計値として取り扱います。特定の学校を診断・評価するものではなく、個別の学校への結果返却や助言を行うことは予定していません。

※ 回答時間の目安は各票約30分です。学校として協力する場合も、教職員個人の回答は任意です。詳しくは、同封の依頼文・回答ガイドをご覧ください。

Web掲載版では、電話番号・メールアドレスを掲載していません。